



第1回トキ野生復帰分科会が開催されました

7月6日、環境省の「トキ野生復帰分科会」が佐渡市トキ交流会館で開催されました。この分科会は、これまでの「野生復帰専門家会合」と「飼育繁殖専門家会合」を統合したもので、第1回目は、放鳥トキの繁殖期の状況や今後の放鳥計画などについて専門委員による検証、検討が行われました。主な内容については次のとおりです。

周辺を調査し、卵の殻を検査したところ、2ペアから有精卵の可能性がある卵が1個ずつ確認されたが、その他はすべて無精卵もしくは初期に発育を中止した卵と判断された。また、抱卵放棄についてはテンやカラスの襲来、他個体の飛来や暴風雨などが影響したものと考えられる。

なお、繁殖に至らなかった原因については、7月26、27日開催の飼育繁殖小委員会、さらに議論することとした。

飼育下のトキの状況

分散飼育地も含め23ペアから51羽のヒナが誕生した。これにより、7月6日現在で国内におけるトキの飼育羽数は190羽となった。

今後の放鳥計画

秋と春の年2回、各回20羽ずつ順化ケージから放鳥を行う。第5回目放鳥は、9月下旬に行う予定。

なお、放鳥候補個体については、自然繁殖個体のペア形成率が高いこと、分散飼育地の協力により個体の一定数の確保にめどがついたことから、今後は自然ふ化、自然育すう個体により実施することを原則とする。

放鳥トキの繁殖期の状況
佐渡島内で7ペアが産卵し、すべてのペアで抱卵が確認できたがふ化には至らなかった。
抱卵放棄後、全ペアの巢内および



世界遺産登録に向けて

「佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観」が
重要文化的景観に選定されます

佐渡市南西部の西三川流域一帯は、平安時代に採掘が始まった佐渡最古の金山とされる西三川砂金山ゆかりの地です。

明治5年(1872)に砂金山は閉山しましたが、砂金採掘跡地や周辺集落の共有地を農地に開発したり、炭焼きなどをしながら、今日まで人々の営みが受け継がれてきました。

西三川砂金山の中心地として栄えた笹川集落周辺には、砂金採掘によって形成された平地や急斜面を巧みに利用した屋敷配置、砂金採掘で出たガラ石を用いた石垣などをみることが出来ます。

このように、鉱業から農林業へと土地利用の移り変わりを示す独特な景観が評価され、平成23年5月20日に開催された国の文化審議会において、「佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観」として重要文化



笹川集落の景観



笹川集落の大山祇神社と能舞台

的景観に選定するよう答申が出されました。これにより、全国で29件、新潟県では初めての重要文化的景観となります。正式な選定は、答申後に予定されている官報告示をもって決定となります。

今後は、地域住民の生活・生業の継承と景観の保護を両立させながら、地域活性化につなげていきたいと考えています。

◆市役所世界遺産推進課(金井コミュニティセンター内) ☎63-5136